

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホームひまわりの丘(ユニット:あさがお)		
所在地	小樽市緑1丁目28番8号		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0172000655-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

坂の町小樽にあり、有名な『地獄坂』を登りきったところにあるグループホームひまわりの丘です。住宅街の一角にあり、一見「どこにあるんだらう」と思うほど、隠れ家的なホームになっています。そこには利用者様18名の生活の場があり、一人ひとりの意志や尊厳を大切に、楽しく安らぎのある生活が送れるよう共に支えています。職員は30代40代の職員が多く、活気に満ち溢れたホームです。利用者様と家族のような関係を築いていきたいと強く想って日々行っています。また、地域の特性を活かし、小樽商科大学の学生アルバイトを雇用したり、地域の幼稚園との交流、町内会行事への参加を通して地域に根付いていきたいと強く想っています。認知症になっても安心して暮らせる社会、認知症になってもその人らしく地域の一人として過ごせる社会の実現を目指し、ひまわりの丘職員全員で取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年2月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに、施設理念を提示し、職員が都度確認が出来るようにしています。また、研修会・フロア会議等の中で、尊厳や認知症についての理解を深め、常に実践できるようにしています。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には極力参加しています。しかし、交流自体は多くないため、日常的に挨拶をしっかりと行ったり、ホーム内での行事参加の案内を出す等の取り組みは行っています。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そのような取り組みは現在行っていないが、今年度中に町内会や市民向けの講演会を行う予定です。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度運営推進会議を実施し、ご家族の方や町内会の方、地域包括支援センターの方々に参加をしていただき、そこでの意見等を参考にし、当ホームのサービス向上に努めている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	確認事項やわからない事がある際は、市の担当者へ連絡をして指導を仰いでいます。また、当法人で主催する研修会等の参加の声を掛けさせていただいています。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修会を開催することで、職員に対して日常的に意識してもらい取り組みや啓発活動に取り組んでいます。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会を設置しており、委員会を中心に虐待防止に努めている。また、職員間でお互いに注意し合える関係性作りも取り組んでいます。			

グループホームひまわりの丘(ユニット:あさがお)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている利用者様は数名いるが、制度について学ぶ機会はもてていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様ご家族様に対し、契約書や重要事項説明書の内容に沿って説明をしています。また、不明な点等について随時説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様からは都度意見の聞き取りを行っており、ご家族様に対しては面会時または電話連絡で意見を伺っている。意見のあった際は、カンファレンスや引継ぎの場で検討し、出来るだけ早急に対応出来る体制をとっています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	頻度は定めていないが、日常的に職員が話しやすい(意見の言いやすい)関係(環境)を構築するよう心掛けています。また、そこで出た意見や思いを反映できるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6ヶ月に1度個別面談を行い、自己目標の設定や自己評価の機会を設けています。その中で出た、目標の達成できるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修会に参加を促し、出来るだけ多くの職員が出席できるようにしています。また、個々の職員に内部研修担当をもらい、そこで知識の向上やプレゼン力向上などの取り組みをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム相互訪問研修や実践者研修実習生の受け入れなどをして情報交換を行っています。互いにサービスの質の向上が出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	都度声を掛け、ご本人の要望を職員間で共有し、一日でも早く安心して生活が送れるような環境作りを心がけ、信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してからのご本人の様子や、要望や思いなどをご家族に伝え、情報を共有するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談や、ホーム見学に来られた際は、現状を出来るだけ多く聞き取り、在宅での生活が可能であったり、経済的に難しい状況であれば、他サービスについても説明をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事(掃除・調理・洗濯)などを共に行うことにより、暮らしを共にしているという意識と、関係性作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や月間行事の際に、ご家族様にも参加案内をして、利用者様と係わる機会作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方の面会時には、落ち着いた環境で面会が出来るよう努めています。また、入居前から通っていたお寺や教会などに送迎等に対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等の作業を通して利用者様同士が会話できる環境作りを行ったり、利用者様の間に職員が入り話題の提供などを行うよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもホームに来所してもらえるように声を掛け、ご本人やご家族を出来る限り支援できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位の考え方を意識し希望と意向の把握をしているが、全ての場面で利用者様一人ひとりの希望や意向の実現について実施は出来ていないです。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん入居後においても、ご本人やご家族、友人の方等から聞き取りを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で心身の状況などを介護記録に記載し、状態の把握を行えています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時、または必要時にカンファレンスや担当者会議を開催し、ご本人やご家族の意向を取り入れ介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントの気づきや工夫についての記録が不十分だが、申し送りなどでの口頭での情報共有は行えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はそのような機会がないため特に取り組んでいないが、今後そのようなニーズがあった際に取り組んでいこうと思っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主に町内会が主になっているが、利用者様が安心して町内へ出かけたり、地域の方達と交流がもてるよう町内会と連携を図っていきたいと思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を伺い、入所前からのかかりつけ医に受診ができるよう支援しています。希望等のない場合は、当ホームで信頼のおける医療機関を紹介し対応しています。		

グループホームひまわりの丘(ユニット:あさがお)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時は、看護師も同席し日々の状態変化を報告し、必要に応じて医療機関等への報告を行っています。また、血圧測定などの日常の体調管理も看護師が主になり行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、心身の状態の報告はもちろん、ホームでの生活の事や、ご本人の嗜好について事細かく伝えていきます。また、面会の回数も増やし都度状態の確認を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、終末期ケアの実施はないが、ご本人やご家族の希望、医師の判断により、ご本人やご家族に十分な説明を行ったうえで、できる限りの支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で開催している、普通救命講習に全職員が参加することで緊急時の対応が行えるよう取り組んでいます。また、緊急連絡先を明確化にしておき、適切な対応が取れるよう取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しており、災害時に避難が円滑に行える取組を行っています。地域の方にも避難訓練の参加を促し、十分ではないが、協力体制を構築しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の生活歴や性格、職業などに応じて、敬語や方言などを使い分けて対応しています。会話をする際の目線なども気を付けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人から希望又は意思表示がある際には、ゆっくり話を聞き、出来る限り自分で決めていただくよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切にし、ご本人の要望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後など、その方の希望を伺いながら支援しています。頭髪等も清潔感を保つよう支援しています。		

グループホームひまわりの丘(ユニット:あさがお)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりの嗜好を把握し、楽しみながら食事が出来るよう支援しています。食事の味付けや盛り付け等も参加していただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く食べていただけるよう見た目や量、食材の柔らかさや大きさなどに気を配っています。水分は、こまめに飲用していただけるよう声掛けを行っています。また、嗜好品なども提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施を行っています。また、歯科医からの指導も受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿記録を付けており、排尿間隔の把握を行っています。出来る限りトイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトなどの乳製品を提供しています。ご本人の要望に応じてヤクルトの購入等も対応しています。また、体操や運動などで腸が活発に動くように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人に時間帯の希望などを聞き、出来る限り要望に沿えるように努めています。同姓介助を希望される方には要望に沿って行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、ご自身の意思で休養が出来るよう支援しています。夜は、安眠が出来るよう物音や足音に十分配慮して行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングしており、必要な時にすぐ閲覧できる状態になっています。また、薬の変更等があった場合は、職員間で情報を共有し、様子観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様から要望を伺い、レクリエーションや行事等を行っています。その中で、役割を持ってもらいご本人の出来ることは行ってもらっています。		

グループホームひまわりの丘(ユニット:あさがお)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の希望を即日に対応できていないが、日程調整を行い、近日中に外出できるように努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個々の経済状況を把握し、その範囲内で使用できるように支援しています、また、お金の所持を希望される方には、数千円の所持をいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人ご家族や知人友人から希望のあった際には、電話もしくは手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは整理整頓し、雑然とした雰囲気にならないように心掛けています。また、照明関係、温度や湿度の管理も季節に合わせて行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の関係性に配慮し、食卓テーブルのレイアウト等を考えています。ソファを設置しており、自席の他にテレビを観れる空間を設けております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が以前から使用していた馴染みの物を使用してもらおう努めています。仏壇や筆筒などの家具について、ご本人やご家族と相談して行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が安定した歩行が出来るよう各箇所に手すりを設置しています。また、入居時にご本人と居室の表札作りを行い、部屋がわからない事が無いよう工夫をしています。		